

Y.T 税理士試験準備

長崎県立大学大学院
地域創生研究科卒

私は、地方に生まれ、地方で学び、地方で育ってきました。そのような中で私の住む地方の衰退をひしひしと感じており、このままではいけないという危機感とともに、何かしなければならぬという使命感を感じました。誰かがやるのではなく、私達、若者一人一人が生まれ故郷のために何かをしたい、そのように思い、私は地方創生について研究を行っている地元の大学院に入学しました。私の夢は、地域に根差した税理士になることです。税理士の立場から地元の企業の経営のお手伝いをし、地方の活性化を図っていく。将来的にはそのようなことができればよいなと思っております。

大学院では、地方創生について学ぶとともに、専門として税法について学びました。大学院ではゼミに所属して、研究を行います。ゼミの時間では、税法判例について調査したことを発表し、判例を読み解く力を養いました。修士論文では、事業所得と雑所得についての研究を行いました。

この研究では、近年の副業を行う者の増加により、顕在化しつつある事業所得と雑所得の範囲の曖昧さの問題に注目し、両所得区分の範囲を明らかにすることを目的として研究を進めてきました。副業により発生した所得は、多くの場合、事業所得と雑所得とに分類されますが、両所得区分が元々、事業所得等という同一の所得区分から派生して設けられたという歴史的経緯から、その範囲は曖昧となっています。所得税法上においても事業所得に該当する事業について明確な規定がないことから、両所得区分の判定を巡って、昔年から多くの税務訴訟がなされてきましたが、明確な判断が示されておらず、事業所得と雑所得の範囲の曖昧さは、残されたままとなっています。現状では、国民の法的安定性と予測可能性が十分に担保されているとはいえ、非常に問題であり、事業所得と雑所得の範囲を明らかにする必要性がありました。このような問題背景から私は「事業所得と雑所得の範囲について」というテーマで研究を行い、修士論文を執筆しました。

修士課程を修了した後は、8月の税理士試験に向けて勉強を行い、試験を受けてまいりました。就職については地元を代表する企業への就職が決まっております。そこで、経理についての経験を積むとともに、税理士試験への合格に向けて勉強を進めてまいります。将来的には、地域に根ざした税理士になれるように精進してまいりたいと思います。

最後になりますが、後進の後輩への助言を述べさせていただきます。私は大学院の2年間を過ごしてまいりましたが、この2年間は本当に早いものでした。皆様が想像するより本当に早く時間が過ぎました。大学院でもっとやりたいことはたくさんあったのですが全ては行うことはできませんでした。それが後悔として残っております。ですからこれから大学・大学院に通う方には、大学・大学院で行うやるべきリストを作って日々見返すとよいかと思います。やるべきリストの中でできたものは消して、できていないものを残してい

きます。この時に自分ができていないからといって責めるのは NG です。あくまで目標として行ってください。このようにすれば、自分が今何をすればよいのか、何ができていないのかが可視化できます。日々何となく過ごして貴重な時間を浪費することもなくなることでしょう。学生期間はあっという間です。後悔の無いように日々大切に過ごしてください。皆様の活躍を期待して楽しみにしております。ありがとうございました。